

検 査 部

1 構 成 員

	平成19年3月31日現在
教授	0人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（1人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	17人
その他（技術補佐員等）	13人
合 計	31人

2 教員の異動状況

飯野 和美（助手）（H17. 4. 1 現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4編（0編）
そのインパクトファクターの合計	12.34
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	3編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Iwahara K, Tanabe C, Maekawa M : Dilution Test for Differentiating Falsely High Serum Free Triiodothyronine Concentrations. Clin Chem 52(9): 1828-1829, 2006.
2. Horii T, Izumida S, Takeuchi K, Tada T, Ishikawa J, Tsuboi K : Acute peritonitis and salpingitis associated with streptococcal toxic shock syndrome caused by Lancefield group

G alpha haemolytic Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis. J Med Microbiol 55(7): 953-956, 2006.

3. Horii T, Monji A, Uemura K, Nagura O : Rapid detection of fluoroquinolone resistance by isothermal chimeric primer-initiated amplification of nucleic acids from clinical isolates of Neisseria gonorrhoeae. J Microbiol Methods 65 (3): 557-561, 2006.
4. Iino K, Oki Y, Matsushita F, Yamashita M, Hayashi C, Miura K, Nishizawa S, Nakamura H. Immunohistochemical properties of silent corticotroph adenoma and Cushing's disease. Pituitary 10(1): 35-45, 2007.

インパクトファクターの小計 [12.34]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 沖隆, 飯野和美, 山下美保, 林千雅, 松下文枝, 中村浩淑 ACTH分泌異常におけるGHRP-2負荷試験の有用性について。ACTH RELATED PEPTIDES 17: 95-101, 2006.
2. 山下美保, 沖隆, 飯野和美, 林千雅, 中村浩淑 ACTH分泌調節機構におけるstore-operated channel (SOC) の関与。ACTH RELATED PEPTIDES 17: 59-64, 2006.
3. 石川仁子, 谷口照美, 浦本 武, 竹下明裕, 前川真人：遺伝子メチル化の臨床検査に及ぼす影響に関する研究。 Effects of DNA Methylation on Clinical Laboratory Data. 日本臨床検査自動化学会誌32(1) : 12-18, 2007.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 飯野和美, 沖隆. 【ER・ICUでの薬の使い方Q&A プロの実践と秘訣に学ぶ】代謝・内分泌疾患の緊急治療 副腎皮質機能亢進症/副腎皮質機能低下症/急性副腎不全（クリーゼ）（Q&A/特集）救急・集中治療18（7-8）：1093-1098, 2006.

4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (305万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)

(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件（0万円）
--------------------	---------

(1) 文部科学省科学研究費

1. 石川仁子（代表者）若手研究（B）「アミラーゼの遺伝子発現の新規タイピング法の開発と腫瘍産生アミラーゼ解析への応用」230万円
2. 岩原邦宏（代表者）奨励研究（B）「内分泌検査データに影響を及ぼすホルモン自己抗体の簡便な非RI検出法の確立」75万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	2件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第57回日本電気泳動学会総会

3) シンポジウム発表

石川仁子，前川真人 高LD血症の原因探索，特にLDアイソザイム解析から見出された知見。
第57回日本電気泳動学会総会

渡邊弘子，杉浦 綾，前川真人 自動電気泳動装置（AES320）による臨床検査性能評価。
第57回日本電気泳動学会総会

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成18度
産学共同研究	0件

11 受賞

(3) 国内での受賞

1. 杉浦 綾 日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会，橋本基金学術奨励賞，平成18年3月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

- ① ACTH産生下垂体腫瘍におけるprohormone convertaseの発現と，腫瘍増殖能の関連についての研究
(飯野和美)
- ② 糖尿病患者における食事前後の超低比重リポ蛋白—中性脂肪の測定，同検査の臨床的意義についての検討
(飯野和美)